

平成28年5月23日（月）に、ホテルグリーンタワー幕張にて、平成28年度千葉県バイオ・ライフサイエンス・ネットワーク会議総会・研究成果・事例報告会を開催しました。参加者は61名で、アカデミア、バイオ関係、食品、種苗関係、公的研究機関、サービス関係、自治体等、バラエティーに富んだ方々にご参加いただきました。

## 1 総会

本会議の会長である（公財）かずさDNA研究所 大石理事長、行政機関代表として千葉県商工労働部 床並部長のあいさつに続き、事務局である千葉県商工労働部産業振興課 渡辺副主幹から平成27年度事業報告、平成28年度事業計画の説明を行いました。



（かずさDNA研究所 大石理事長）



（千葉県商工労働部産業振興課 床並部長）



(千葉県商工労働部産業振興課 渡辺副主幹)

## 2 事例報告会

引き続き、「植物ゲノム配列の解読とその応用に向けた研究」をテーマとして、以下の3つの課題について事例報告会を行いました。

### (1) 「植物のゲノム解読とデータベースの統合化」

**かずさDNA研究所 ゲノム情報解析グループ長 平川 英樹**

植物のゲノム配列の解読手法およびゲノム関連データやデータベースから有用な情報を得ることを目的とした統合化データベース Plant Genome DataBase Japan (PGDBj; <http://pgdbj.jp>) について紹介しました。



(かずさDNA研究所 平川グループ長)

## (2) 「植物統合データベースにおけるオルソログ情報の活用と可視化」

大阪大学大学院医学系研究科 特任教授 中谷 明弘 氏

かずさDNA研究所他と共同で開発している植物統合データベース PGDB j でのオルソログ情報の育種分野等での活用に向けた手法についてその可視化手法と併せてご紹介をいただきました。



(大阪大学大学院医学系研究科 特任教授 中谷 氏)

## (3) 「植物ゲノム情報の種苗・食品産業への活用方法」

かずさDNA研究所 植物ゲノム・遺伝学研究室 白澤健太主任研究員

近年、農作物のゲノム・遺伝子配列が急速に解読され公開され始めており、これらのゲノム情報を作物の品種改良や種苗の品質管理、食品原材料の品質管理、食品原材料の品種識別などに活用する方法について実例を交えながら紹介しました。



(かずさDNA研究所 白澤主任研究員)

### 3 まとめ

参加者の皆様からは、“実際に形になる例の話を知ることができて良く理解できた”、“品種開発が進んでいる展望を知ることが出来て良かった”等々の反響をいただき、盛況のうちに終了することができました。



(情報交換会)